群教セ	G05 - 09
	平16.221集

創造的な表現の追求を高める絵画指導の工夫

― 感動や夢につながる認識･評価の活動を取り入れて ―

特別研修員　　櫻井　千晴　　（群馬県立渋川女子高等学校）

《研究の概要》

本研究は、絵画表現における鉛筆素描の学習に、認識・評価の活動を取り入れることで対象への感動や夢の発想・構想を明確にするとともに、作品に反映し、創造的な表現の追求を高めようとしたものである。具体的には、つかむ過程に感動や夢につながる発想や構想の認識・評価の活動及び､つくる過程に感動や夢につながる表現の認識・評価の活動を取り入れることで、創造的な表現の追求を高める指導の工夫をしたものである。

【キーワード：美術－高　鉛筆素描　感動や夢　認識・評価】

Ⅰ　主題設定の理由

情報量が多い社会では、対象物が多すぎるためにかえって物事に対する感動や夢が薄らいでいたり、もてなかったりする現実がある。生徒は、テレビや雑誌、新聞等で目にする俳優、歌手、有名人、タレント等の活躍に感動したり、自己の夢として重ね合わせたりしている。また、雑誌やＣＤを集め、髪形やファッションをまね、あこがれをもっている。しかし、俳優等に対する感動や夢は、テレビや雑誌等に見られる部分的、表面的な面からの思いであり、それは物事や対象をただ単に眺めるという行為にすぎない。そこで絵に表すことを通して、対象への感動や夢をより深く、確実なものにし、その思いを意図的・計画的に表すことは、創造的な表現の追求を高めるのに有効であると考える。

本校の生徒は、絵画表現の中の素描（デッサン）で、自画像やブロックを描き、立体感を表すための表現の強弱の工夫や遠近法を身につけている。しかし、創造的な美術の諸活動を通して、自己や社会などを深く見つめ表現を追求したり、生徒自らが課題を見付け解決したりする能力が不足している。自己や社会などを課題を通して考え、作品としてより深いものを生み出そうとする自覚を高めるとともに創造的な表現の追求を高めたい。

本研究では、生徒の憧(あこが)れ、興味、感動、夢の対象となる人物を、絵画表現の基本である素描で表現し、生き生きとした生命感の表現や徹底した写実表現を試みることで、対象に対する思いを深め、自己と社会を見つめそこにある問題を認識した創造的な表現の追求を高めたい。絵画表現の追求において、これまでの学習は教師と生徒の二人のやりとりによる個別学習に終始することが多く、十分に発想や構想を練り、表現の追求を高めるまでには発展しなかった。そこで、対象人物に対する感動や夢を発想や構想するつかむ過程及び、対象を描写しているつくる過程において、制作上の問題点を解決に導いたり、考えのよさ等を再確認したりするなどの認識・評価につながる活動を取り入れれば、感動や夢をより深く、確実にできるのではないかと考えた。

これらのことから絵画表現に、感動や夢につながる認識・評価の活動を取り入れ、創造的な表現の追及を高める絵画指導の工夫を本主題として設定した。

Ⅱ　研究のねらい

絵画表現において、感動や夢につながる認識・評価の活動を取り入れれば、創造的な表現の

追求が高められることを、実践を通して明らかにする。

III　研究の見通し

各過程に、次の活動を取り入れれば、創造的な表現の追求を高めることができるであろう。

1　つかむ過程において、感動や夢につながる発想や構想の認識・評価の活動を取り入れれば、深く対象への憧れや興味といった思いを自覚でき、構想が明確になるであろう。

2　つくる過程において、感動や夢につながる表現の認識・評価の活動を取り入れれば、表現意図や表現上の工夫が作品に表れているかを自覚でき、感動や夢に対する思いをより深く作品に反映できるであろう。

IV　研究内容と方法

1　研究の内容

(1)　絵画における「創造的な表現の追求を高める」とは

創造的な表現とは、対象の感動や夢を形・色・素材等を使い、意図的・計画的に絵画表現することである。よって、創造的な表現の追求を高めるとは、深く対象への憧れや興味といった思いを自覚でき、発想や構想が明確になるとともに表現意図や表現上の工夫が作品に表れているかを自覚でき、思いをより深く作品に反映できることである。

(2)　「感動や夢につながる認識・評価の活動」とは

感動や夢が、発想や構想及び表現に表れているかを認め合ったり助言し合ったりして、新たな思いを自覚していく活動である。具体的には、対象への憧れや興味といった思いを発想や構想及び表現にどのように表したかを伝え合う。その後、聞いたり見たりしたことを基に見極め、それらのよさを認め合ったり助言し合ったりして、次の学習で行うことを一層自覚できるようにしていく。更に、発想や構想が明確になり、思いをより深く作品に反映できることへつながる活動である。

具体的には、次の二つである。

①つかむ過程において、感動や夢につながる発想や構想の認識・評価の活動

対象への感動や夢を表現するのには、どんな手立てがあるだろうかなどを発想・構想し、自分の言葉で学習カードに記入し、少人数の班で交流活動を行い、新しい発見や構想上の問題点などに気付き、それらを深めたり、明確にしていく活動である。

②つくる過程において、感動や夢につながる表現の認識・評価の活動

表現上の問題や発想表現が作品に表れているかを振り返り、学習カード記入後、少人数の班で交流活動を行い、感想や意見を聞き、それらを一層明確にし意図的・計画的に追求できるようにしていく活動である。

2　研究の方法

研究の見通しに基づき、つぎのような方法で授業実践を行い検証する。

(1)授業実践計画

対　象	群馬県立渋川女子高等学校　　2 年　2、3、4 組　　40人	
題材名	「感動や夢を作品にのせて」　　素描による似顔絵表現　（鉛筆素描）	
期　間	平成16 年10月 6日 ～　12月22日　（10 時間）	
	生　　徒　　A	生　　徒　　B
抽出	意欲的な態度で制作に取り組め、発想力や表現力もおおむね高い。自分の世界があり、ひと	描写力は高いものをもっているが控えめなので、発想や構想に自信がもてるようになれば、

生徒	りよがりな表現になりやすいので、交流活動を通して客観性をもちながら、創造的な表現の追求を高めたい。	さらに作品が充実したものになるであろう。交流活動を通して、自信をもって創造的な表現の追求を高めたい。

(2)検証計画

	検証場面	検証の観点	検証の方法
検証1	憧れや興味等の対象である人物の印刷物を選び、感動や夢の発想や制作のための構想を伝える場面（つかむ過程）。	対象の人物への憧れや興味等を感動や夢とし、それらを表わすにはどんな手だてがあるかを記録したり、友人の発表や感想・意見などを聞いたりすることが、発想や構想を明確にするのに有効であったか。	・学習カード ・交流活動 ○学習カードに書かれている内容やその交流活動から検証する。
検証2	制作途中において、表現追求するための問題点、感動や夢を伝えるための場面（つくる過程）。	表現上の問題や発想が作品に表れているかを振り返り学習カード記入をし、交流活動を実施することは、感動や夢に対する考えをより深く、作品に反映するのに有効であったか。	・学習カード ・交流活動 ○制作途中作品や学習カードに書かれている内容やその交流活動から検証する。

V　研究の展開

1　題材名及び題材の内容

題材名	「感動や夢を作品にのせて」　　素描による似顔絵表現　（鉛筆素描） ＜　学習指導要領　　A　表現　　(1) 絵画・彫刻　＞
題材の内容	生徒各自があこがれや興味の対象となる人物の印刷物をもとに、感動や夢の発想や構想をし、鉛筆素描でその発想を作品に表し、制作者の思いを表現する題材である。対象となる印刷物の人物のイメージや特徴から発想や構想し、対象への思いを主体的に考えながら、印刷物にいかに迫れるか、さらに生命感などが表現されるかといった似顔絵表現（素描）の課題である。

2　題材の目標及び評価規準

目標	○ 感動や夢の発想や構想をより深く考え、素描材料や技法の効果的な活用を図り創造的な表現の追求をする。	
	おおむね満足できる状況	十分に満足できる状況
評価規準	造形への関心・意欲・態度	
	○ 対象の人物の印刷物に働きかけ、発想や発想表現のための構想をつかもうとする。 ○ 感動や夢の表現のための生命感や立体感や陰影といった表現の一貫性に興味をもち、創造活動の喜びを味わおうとする。	○ 対象の印刷物からの発想や構想、友人との交流活動をもとに、表現の追求をめざそうとする。 ○ 感動や夢の表現のための適格な技能を働かせ制作や表現の喜びを感じ取りながら、自ら作り出す表現活動を味わおうとする。
	芸術的な感受や表現の工夫	
	○ 対象の人物の印刷物に働きかけ、発想を感じ取り、表現のための構想をねろうとする。 ○ 感動や夢の表現を素描技術を使い、構想しながら表現しようとする。	○ 感動や夢を対象の人物の印刷物に見いだす発想をし、制作意図や方法などを考えようとする。 ○ 他との交流活動も考え合わせ参考にし、素描技術を使い、構想しながら表現しようとする。
	創造的な表現の技能	
	○ 憧れや興味といった思いの発想表現を工夫し、感じ取る力や造形的な技能などを働かせ主体的に表現しようとする。	○ 対象の人物の印刷物にかかわり表現していく中での問題点に気付き、他との意見交流を参考にし、感じ取る力や造形的な技能などを働かせ、主体的、客観的に表現を工夫する。

3　指導と評価の計画　　□ は検証を表し、□ は評価方法を表す

過程	時間	○ねらい ・主な学習活動	支援及び 指導上の留意点	学習活動の評価規準　A,B は、抽出生徒　A,B への支援を示す 関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能
つかむ	20分	○創造的な表現の追及を高めるための交流活動を通じて発想や構想を深める。 ・憧れや興味を抱く人物の選択 ・選択した人物の印刷物から、表現するための発想や構想をし学習カードに記入する。	・発想について、感動や夢など、具体的に認識する。 ・交流活動を前提に、学習カード記入は具体的に明記するように話す。 ・どんな印刷物が素描表現に向いているか事前に指導する。	○対象の人物印刷物に働きかけ、発想の表現のための構想をつかもうとする。 ＜十分満足できる状況＞ ・交流活動において交流事項を参考にしようとする。 ＜努力を要する生徒へ＞ ・個別にかかわり興味や関心などの具体例をあげ、意欲がもてるように助言する。	○印刷物に働きかけ、発想を感じ取り、構想を練る。 ＜十分満足できる状況＞ ・自らの発想や構想と交流活動における参考事項を考え合わせようとする。 ＜努力を要する生徒へ＞ ・個別にかかわり興味や関心などの具体例をあげ、発想や構想になるよう助言する。	
		検　証　1		A 興味、関心は高いので交流活動を通して参考となる事項に気付き、構想を十分に練られるようにしたい。 B 素直な気持ちを文章にし、交流活動において参考事項を応用し、発想の文章化を充実なものにしたい。	A 発想力は高いので、交流活動を通して、その発想が十分に表現できるように構想を深めたい。 B 構想手段では高い力をもっているので、交流活動において参考事項を応用し、発想を確実にしたい。	
		・学習カードをもとに発想や構想の交流活動をする。 ・友人の発表を聞き、参考事項を記録したり、自分の感動や夢の発想や構想を練り直す。	・対象に対する感動や夢などが発想しやすいように支援する。 ・友人の発想や構想を聞き参考事項を記録し、練り直す点は改める。	・対象人物への興味 ・学習カードへの記入 ・交流活動の様子	・対象人物への興味 ・学習カードへの記入 ・交流活動の様子	
つくる	200分	○構想に沿った制作を進める。 ・個有色と陰影の黒さを大まかにいれる。 ・創造的な表現の追求を高めるための細部表現 ・学習カード記入後、交流活動を実施する。 ・交流活動後、再制作をする。	・立体感の表現は白黒の強弱で表現できることを指導したい。 ・構想に沿った制作をしているか確認する。 ・細部表現では、全体との比較に注意して描き込む。 ・学習カード記入は交流活動を前提に具体的に明記するように伝える。	○感動や夢の表現のための生命感であり、生命感のための立体感の表現であり、立体感を表すための陰影であるといった一貫性に興味を持ち、創造活動の喜びを味わおうとする。 ＜十分満足できる状況＞ ・交流活動を通じさらなる追求をし表現しようとする ＜努力を要する生徒へ＞ ・立体感→生命感→発想の一貫性を持ちたい。	○感動や夢の表現の発想を素描技術を使い、構想しながら表現しようとする。 ＜十分満足できる状況＞ ・交流活動を通じ発想や構創をさらに深め素描技術を働かせ表現しようとする。 ＜努力を要する生徒へ＞ ・陰影表現や個有色表現で立体感が生まれることを助言する。	○発想が作品に表され創造的表現の追求を高めようとする。 ＜十分な満足状況＞ ・主体的で客観的な表現をしようとする。 ＜努力を要する生徒＞ ・主観的すぎる表現を印刷物を客観視し、交流活動も活用し、主体的、客観的表現ができるようにしたい。
		検　証　2		A 発想は表現の追求で表せることを交流活動からも参考にし、構想を高めたい。 B 発想表現のための制作構想であることを交流活動からも参考にし、発想を大切に維持したい。	A 発想表現は制作構想に沿った丁寧な表現や交流活動を参考にしたい。 B 発想表現のための創造活動であるという認識を大切に交流活動も参考にしたい。	A 発想は表現の追求により表せることを認識するために交流活動も参考にしたい。 B 創造活動は発想表現のためのものという認識を持つために、交流活動も参考にしたい。
		・学習カードを基に制作の発想や構想の交流活動をする。 ・参考事項を記録する。	・表現の追求を高められるように支援する。 ・問題意識を認識できるように支援する。	← ・学習カード ・交流活動の様子 ・生徒作品 →		
ふり	1	○発想や構想に基づいて創造的な表現が高めら	・発想がよく表れていたり、構想に沿って努力さ	○感動や夢などの思いを表現するために、創造的な表現の追求を高める努力がなさ	○自分の発想や構想と友人との交流を参考にしながら、素描の技術を働かせ、創造	

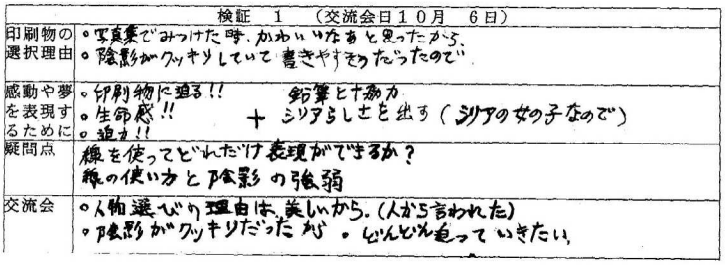
かえる	0分	れたか。 ・自分や友人の作品を鑑賞し、気づいた点などを記録する。	れている作品を何点か抽出し、鑑賞の支援としたい。	れ、制作の喜びを味わおうとする。 ・鑑賞態度や学習カードから見取る。	的な表現の追求がなされたか、作品から感じ取ろうとする。 ・鑑賞態度や学習カードから見取る。	

Ⅵ　研究の結果と考察

1　対象の人物への憧れや興味等を感動や夢とし、それらを表すにはどんな手だてがあるかを記録したり、友人の発表や感想･意見などを聞いたりすることが、発想や構想を明確にするのに有効であったか

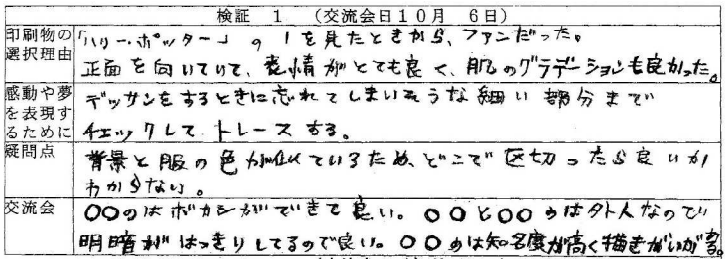
つかむ過程において、思いや興味の対象である人物の印刷物を生徒各自が選択し、発想や構想を学習カード(資料１、２)にまとめた後、４～５人のグループで交流活動を行い、交流活動記録用紙に記録者が記録した。それぞれの人物を選んだ理由は何か、どんな点に感動や夢をもったか、疑問点は何かなどを発表しあい、友人の発表の中で参考となる事項は各自の学習カードに記録した。この交流活動を等して生　徒は、友人の発表を聞きながら、いろいろな考えのあることや、対象に対しての感動や夢といった発想や構想をさらに明確にしていった。

資料　1　Aの学習カード



検証　1　（交流会日10月　6日）	
印刷物の選択理由	◦写真集でみつけた時、かわいいなあと思ったから、 ◦陰影がクッキリしていて書きやすそうだったので
感動や夢を表現するために	◦印刷物に迫る!!　鉛筆と協力 ◦生命感!!　＋　シリアらしさを出す（シリアの女の子なので） ◦迫力!!
疑問点	線を使ってどれだけ表現ができるか？ 線の使い方と陰影の強弱
交流会	◦人物選びの理由は、美しいから。（人から言われた） ◦陰影がクッキリだったから。どんどん迫っていきたい。

資料　2　Bの学習カード



検証　1　（交流会日10月　6日）	
印刷物の選択理由	「ハリー・ポッター」の1を見たときから、ファンだった。 正面を向いていて、表情がとても良く、肌のグラデーションも良かった。
感動や夢を表現するために	デッサンをするときに忘れてしまいそうな細い部分までチェックして トレースする。
疑問点	背景と服の色が似ているため、どこで区切ったら良いかわからない。
交流会	○○のはボカシができて良い。○○と○○のは外人なので明暗がはっきりしてるので良い。○○のは知名度が高く描きがいがある。

Aは、学習カードの対象の選択理由として、「写真集でみつけたときにかわいいなあと思ったから、陰影がクッキリしていて書きやすそうだったので」と発想し、「印刷物に迫る、鉛筆と協力、生命感、対象人物らしさ、迫力」を表現するための構想と考えた。また、疑問点として「線を使ってどれだけ表現できるか、線の使い方、陰影」をあげている。交流活動後では、対象の選択理由の再認識（他の生徒からも美しいと言われた)、印刷物の明度差が大きく、はっきりしていて描きよさそうであることを再認識し、どんどん迫っていきたいと記録している。自らの発想と友人からも賛同の感想を受け、さらに表現意欲が高まったといえる。

Bは、学習カードの中で対象の選択理由として、「ハリー・ポッターの主人公を見たときからファンだった、正面を向いている表情がよく、肌のグラデーションもよかったので」と発想し、「デッサンをするときに、忘れてしまいそうな細かい部分までチェックして、トレースする」を発想表現するための構想と考え記入した。また、疑問点として「背景と服の色が似ているため、どこで区切ったらよいかわからない」をあげている。交流活動後では、ボカシができてよい、外国人なので明暗がはっきりしている、知名度が高く描きがいがあるなど、お互いに他の生徒の印刷物のよさや特徴を出しあい、それらを記録していた。自らの発想の中に、具体的な表現構想を考えにおき、これからの描写への期待が感じ

られる。これらのことから、つかむ過程において、さらに深く対象への感動や夢を認識でき、発想や構想が明確になる認識・評価の活動を取り入れることは有効であったと考える。

2　表現上の問題や発想が作品に表れているかを振り返り学習カード記入をし、交流活動を実施することは、感動や夢に対する考えをより深く、作品に反映するのに有効であったか

つくる過程において、感動や夢が大まかな明暗さや部分の表現となって表れ始めたとき、学習カードに感動や夢の表現のためについて記入し、途中作品を見合いながら交流活動を行なった。交流活動の中で、学習カードに書いたことを基に感動や夢の表現のためにどんなことができるか、どんな疑問点が出てきたかなどを発表しあった。

この交流活動を通して生徒は、友人の発表を聞きながら、表現上の問題点や疑問点の解決案、感動や夢に対する発想の再認識ができ、さらに表現を追求し発想を確実に表そうとする姿勢が確認できた。Aは、学習カードの中で感動や夢の表現のために、「はにかんでいる感じのために、目や口元に注意」と記録し、疑問点では「陰影をどうやってつけていくか、表情がどうやったら生きてくるか」をあげた。交流活動後では、「陰影を採るのが大変、これからは陰影の差を作りたい、陰影をはっきりさせる、印刷物の頭が半分しかないので想像してがんばりたい」と記録した。感動や夢の表現の中で問題点に気付き、また他の生徒の発表を聞き表現手段を工夫しようとしていた。

資料 3　Bの途中作品

Bは、学習カードの中で感動や夢の表現のために、「大まかに線をいれるときでも立体感が出るよう表現する」と記録し、疑問点では「髪の毛の描写、白っぽい明るい部分にどこまで線をいれるのか、より立体感を出すにはどうすればいいか」をあげている。交流活動後の制作では、発想の充実が筆圧となったり、大 まかに統一した黒さの描写が以前より徹底し、交流活動が反映していっているのが作品の中に見て取れる（資料 3、4)。これらのことから、つくる過程において、表現上の問題点を意識することやその解決案や、感動や夢の発想が作品により深く考えられて表される認識・評価の活動を取り入れることは、有効であったと考える。

資料 4　Bの完成作品

Ⅶ　まとめと今後の課題

○　二つの過程での交流活動から分かるように、友人の考えを聞くことで感動や夢の観点が多岐に渡ることに気付き、自分自身の憧れや興味といった思いをより深く考えられ、素描の学習の中に感動や夢につながる認識・評価の交流活動を取り入れる手立ては、創造的な表現の追求を高めることに有効であったと考える。創造的な表現の追求を高めようという意識は、学習カードの記入を基に実施した二つの交流活動の中に見てとれる。

○　感動や夢を、ただ眺めたり思ったりするだけのものとせず、その思いを意図的・計画的に表現することは、深く物事を考えたり、創造活動の表現目的の根幹にかかわる要素として、とらえるべきものであり友人からの感想や意見を聞くことは、さらに表現の追求を高めるものである。